

(原文 URL : <https://mailchi.mp/theibta/rculorsyeg-2299302?e=940563a4b2>)

IBTA e-News 国際脳腫瘍ネットワーク 月刊ニュースレター 2021 年 6 月号

【トップニュース】

IBTA が COVID-19 ワクチンに関する新規アンケート調査を開始

IBTA は、COVID-19 ワクチンと脳腫瘍患者に関する新規アンケート調査を開始した。18 歳以上の患者を対象としたこの国際的調査の目的は、各国の新型コロナウイルスワクチン接種プログラムが組織され脳腫瘍患者に提供されているかに関するデータを収集することである。この匿名調査は、COVID-19 検査、脳腫瘍患者が接種を受けたワクチン、および脳腫瘍患者におけるワクチンの副反応に関する情報も収集している。

この調査は、8 カ国語(英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、ポーランド語、スペイン語、ウルドゥー語)で実施される。今回の新規調査は、昨年実施され、Neuro-Oncology Advances 誌に掲載された 2 件の COVID-19 に関する調査である、(1)「脳腫瘍と COVID-19: 患者と介護者の体験」(<https://doi.org/10.1093/noajnl/vdaa104>)と (2)「脳腫瘍非営利団体と慈善団体における COVID-19 の体験」(<https://doi.org/10.1093/noajnl/vdaa166>)に続くものである。

この最新の COVID-19 とワクチンの調査に関する以下のリンクをお住いの地域の成人脳腫瘍患者に広めてくだされば大変ありがたいです。ありがとうございます。

英語: <https://www.research.net/r/IBTACOVVIDVAX>

フランス語: <https://www.research.net/r/IBTACOVVIDVAX?lang=fr>

ドイツ語: <https://www.research.net/r/IBTACOVVIDVAX?lang=de>

イタリア語: <https://www.research.net/r/IBTACOVVIDVAX?lang=it>

日本語: <https://www.research.net/r/IBTACOVVIDVAX?lang=ja>

ポーランド語: <https://www.research.net/r/IBTACOVVIDVAX?lang=pl>

スペイン語: <https://www.research.net/r/IBTACOVVIDVAX?lang=es>

ウルドゥー語: <https://www.research.net/r/IBTACOVVIDVAX-ur>

第 3 相臨床試験(CATNON)の第 2 次中間解析: 1p/19q 共欠失がない退形成性星細胞腫患者は、IDH 遺伝子変異があり、かつ、放射線治療後に投与された場合にのみ、テモゾロミドによる利益を得る

The Lancet Oncology 誌に掲載された、腫瘍に 1p/19q 共欠失がない初発退形成性星細胞腫患者を対象とした大規模国際第 3 相臨床試験(CATNON)の 2 次解析から、化学療法薬であるテモゾロミドは腫瘍が IDH 遺伝子(IDH1 または IDH2)変異をもち、かつ、放射線治療後に投与された場合にのみ生存期間を延長し、放射線治療と同時に投与された場合には生存期間を延長しないことが分かった。1p/19q 共欠失という遺伝子異常がない退形成性星細胞腫は通常、共欠失を有する腫瘍と比較して、様々な化学療法薬に対する感受性が低く、予後不良である。腫瘍の IDH 遺伝子が正常(「野生型」)な患者では、投与時期にかかわらずテモゾロミドによる生存期間延長は認められなかった。[続きを読む](#)(論文全文を読むには支払または定期購読が必要)。

Alfred Yung 医師(神経腫瘍学教授)がバイデン米国大統領のホワイトハウス・フェローシップ委員会に任命される

Alfred Yung 医師が米国大統領のホワイトハウス・フェローシップ委員会に任命されたことを、IBTA は心から祝福する。Yung 医師は数多くの職務の中でも、テキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンター(テキサス州ヒューストン)の神経腫瘍学教授で、がんムーンショット・ブルーリボン委員会の一員でもある。バイデン大統領は新たに任命された委員会のメンバーに関して次のように述べた。「これらのリーダーは米国の最高の姿、すなわち、私たちの個性、創造性、および多様性を表しています。献身的で実績のあるこの方々が、卓越したリーダーシップ、揺るぎない情熱、および公共サービスへの強い責任感を示す次のホワイトハウス・フェローの選考と指導に協力してくださることを感謝します」。[続きを読む](#)。

WECAN が公開した教育モジュール「Patients in Publications」

IBTA は、ヨーロッパがん患者擁護団体ネットワーク・ワーキンググループ(WECAN)の創立会員である。WECAN は一連の 4 つの教育モジュールである「Patients in Publications(出版物における患者)」を公開したばかりである。患者擁護団体は自分自身の研究や調査データの出版を望んでおり、学術雑誌の共著者や査読者として招かれることも多い。オープンアクセスの「Patients in Publications」課程では、患者擁護団体の出版の出版へのかかわり方を学ぶことができる。このオンライン課程は無料で、自分のペースで修了できる。この課程は WECAN と EnvisionPharma Group 社によって開発された。Kathy Oliver IBTA 会長は慢性骨髄性白血病擁護ネットワーク(CMLAN)、国際神経内分泌がん同盟(INCA)、急性白血病擁護ネットワーク(ALAN)、欧州骨髄腫患者会(MPE)、欧州若年がん患者会(YCE)、欧州悪性黒色腫患者ネットワーク(MPNE)、甲状腺がん同盟(TCA)、および骨髄増殖性疾患の擁護ネットワークのメンバーと共に、課程編成の編集委員会の一員として働いた。この課程にアクセスするには、<https://wecanadvocate.eu/patients-in-publications/>をご覧ください。

【治療関連ニュース】

遺伝子組み換え抗腫瘍ウイルスが日本で悪性神経膠腫の条件付承認を取得

日本厚生労働省が、遺伝子組み換え腫瘍溶解性(抗腫瘍)ウイルスであるテセルパツレブを悪性神経膠腫の治療薬として、条件および期限付で承認したと発表された。日本でのテセルパツレブ(販売名:デリタクト注)の承認は、残存または再発膠芽腫患者を対象とした、治療を評価する単群第2相臨床試験の結果に基づくものである。製薬会社である第一三共社と東京大学が共同開発したテセルパツレブ(G47Δ、旧 DS-1647)は「三重変異」した遺伝子組み換えの単純ヘルペスウイルス 1 型(口唇ヘルペスを引き起こすウイルス)で、脳腫瘍部位に直接注入される。[続きを読む](#)。

抗がん剤グレオスチン(ロムスチン)の米国におけるメディケアでの使用中止

米国で、脳腫瘍や他のがん治療薬である化学療法薬グレオスチン(ロムスチン)は薬価が引き上

げられたため、メディケア医療保険制度を介した患者への提供ができなくなることが、メディアで大きく報じられている。[続きを読む](#)。グレオスチンの所有権を有する NextSource Pharmaceuticals 社はウェブサイト上の公式声明で、薬価引き上げのさまざまな理由を説明している。詳しくは[こちら](#)を参照。

【研究ニュース】

ラロトレクチニブと中枢神経系の NTRK 融合陽性腫瘍

6 月 4～8 日にバーチャルで開催された 2021 年米国臨床腫瘍学会 (ASCO) 年次総会で発表された 2 件の臨床試験結果において、NTRK 融合を有するさまざまな中枢神経系腫瘍を有する小児および成人に対して、ラロトレクチニブが安全で、良好な忍容性を示し、また、評価可能な抗がん作用を有することが示された。NTRK 融合は、NTRK 遺伝子が無関係な遺伝子と結合すなわち「融合」する様々ながんで認められる遺伝子異常で、がん促進性「TRK 融合タンパク質」が産生される。ラロトレクチニブは、TRK 融合タンパク質が引き起こす下流の分子経路を阻害する。[続きを読む](#)。臨床試験の詳細は[こちら](#)と[こちら](#) (Clinicaltrials.gov) を参照。発表アブストラクトは[こちら](#)を参照。

中枢神経系リンパ腫に対するパキサリシブの臨床試験が開始

パキサリシブの製造元である Kazia Therapeutics 社のニュースリリースによると、中枢神経系原発悪性リンパ腫 (PCNSL) の治療薬候補であるパキサリシブ (GDC-0084) の第 2 相臨床試験に、最初の患者が登録された。現在、ダナファーバーがん研究所 (米国マサチューセッツ州ボストン) で臨床試験参加者を募集しているパキサリシブは、細胞増殖や細胞分裂に重要な役割を果たし、多くの型のがんで活性化される酵素 PI3K を阻害するよう設計されている。また、膠芽腫などの他の脳腫瘍におけるパキサリシブの臨床試験も実施されている。[続きを読む](#) (企業プレスリリース)。臨床試験の詳細は[こちら](#) (Clinicaltrials.gov) を参照。

再発膠芽腫を対象としたがんワクチン VBI-1901 の臨床試験データが公表：開発元の VBI Therapeutics 社が米国食品医薬品局の優先審査制度指定を受ける

2021 年 6 月 4～8 日にバーチャルで開催された米国臨床腫瘍学会 (ASCO) 年次総会で、膠芽腫を対象としたがんワクチン VBI-1901 の第 1/2a 相臨床試験データがポスター発表され、両試験患者で過去の対照患者と比較して全生存率が上昇したことが示された。また、VBI-1901 の開発元である VBI Vaccines 社はプレスリリースで、VBI-1901 が初回再発膠芽腫の治療薬として、米国食品医薬品局 (FDA) による優先審査制度指定を受けたことも発表した。優先審査制度指定により、新規治療法の開発と承認迅速化が可能となる。[続きを読む](#) (企業プレスリリース)。ASCO でのポスター発表は[こちら](#)を参照。

再発膠芽腫における 2 剤併用療法の「第 0 相」臨床試験が第 2 相に移行

2021 年 6 月 7 日にバーチャルで開催された米国臨床腫瘍学会 (ASCO) 年次総会で、再発性膠芽腫患者を対象とした 2 剤併用療法の第 0/2 相臨床試験の良好な結果が発表された。本臨床試験で、再発膠芽腫患者は、抗がん剤アベマシクリブと実験薬 LY3214996 の併用療法を受けた。次

に、患者の膠芽腫腫瘍検体を外科的に切除し、解析した。そして、腫瘍内の薬物濃度が十分に高かった患者は、第 2 相試験に移行した。本臨床試験の第 0 相試験は、薬剤と身体の相互作用機序を詳しく理解することに役立つ。これまでの結果に基づき、さらに 25 人の患者が第 2 相試験に進む予定である。[続きを読む](#)。

米国食品医薬品局ががん治療薬の臨床試験における患者の視点の評価に関する最新のガイダンス案を発表

米国食品医薬品局 (FDA) は、がん治療薬の臨床試験において中心となる患者報告転帰 (PRO) の使用に関する推奨事項をまとめた最新のガイダンス案文書を発表した。本ガイダンス案は明確な科学的根拠に基づくことの必要性に対処するため、がん臨床試験現場において、患者に過度な負担をかけることなく、公正かつ科学的に確実な方法で、患者の視点を収集する方法に関して、詳細に説明している。がん治療の臨床試験に特化して策定された本ガイダンス案の全文は[こちら](#)で閲覧可能。また、FDA は本ガイダンス案に対するコメントをオンラインまたは書面で募集中である。[続きを読む](#)。

小児びまん性橋膠腫 (DIPG) を対象としたオンブルタマブの最初のヒト臨床試験結果が発表

今月バーチャルで開催された米国臨床腫瘍学会 (ASCO) 年次総会で、2~21 歳のびまん性橋膠腫 (DIPG) 患者を対象としたオンブルタマブの[第 1 相用量漸増試験](#)のデータが発表され、カテーテルを介して脳内に直接注入されるこの抗体医薬品が小児に対する忍容性を保ちながら、最大 20cm³ の腫瘍に対して十分な用量を安全に投与できることが示された。オンブルタマブはがん細胞の表面に存在する分子である B7-H3 に結合するよう設計された抗体で、DIPG では B7-H3 が異常に大量に存在する。46 人の患者を対象とした本臨床試験で、オンブルタマブに放射性ヨウ素を結合させた。小児の生存期間は通常予想される期間と比較して、平均で 3~4 カ月延長した。発表時には、4 人の患者が 3 年以上生存している。[続きを読む](#) (企業プレスリリース)。発表アブストラクトは[こちら](#)を参照。

オンコード研究所(オランダ)が GLOW プロジェクトに助成金を授与

オランダを本拠地とするがん研究の非営利団体であるオンコード研究所は、全ゲノム配列解析による膠芽腫に対する分子標的薬選択肢の最大化 (Glioblastoma targeted treatment Option maximisation by Whole genome sequencing: GLOW) プロジェクトへ臨床概念実証 (cPoC) プログラムからの助成金を授与したことを発表した。本プロジェクトは、神経科医、神経外科医、腫瘍内科医、および病理医が参加するもので、DNA シークエンス技術を用いて、各人の膠芽腫腫瘍を解析し、腫瘍応じた分子標的薬を見つけ出すとともに、腫瘍を科学的により詳細に理解することを目的としている。[続きを読む](#)。

大規模臨床試験で、小児髄芽腫に対する放射線治療の「追加」照射線量減少は安全で、生存率に悪影響を与えないことが判明

[Journal of Clinical Oncology](#) 誌に発表された研究によると、平均的なリスクの髄芽腫の治療を受

けた小児の放射線治療による重篤な後遺症の軽減を目的とした、549 人の患者を対象とした[第 3 相臨床試験](#)から、標準的な 6 週間の放射線治療コースを受けたこの種類の髄芽腫小児患者は次に通常より低線量の「追加」照射(区域照射、involved field radiation therapy: IFRT)を受けても、標準的な広範囲の「追加」照射(後頭蓋窩放射線治療、posterior fossa radiation therapy: PFRT)を受けた患者と同等の生存率が得られることが分かった。しかし、本研究では、最初の 6 週間の放射線治療コースの総線量を減少させると、平均生存率が低下した。著者らは、小児の転帰の変動は各人の腫瘍の分子的相違によって説明できることを示唆し、この件に関するさらなる研究を求めている。[続きを読む](#)。

シンガポールの膠芽腫に関する諸機関の研究が約 1,000 万シンガポールドルの助成金を獲得

国立神経科学研究所(NNI)、シンガポール国立大学(NUS)、およびデューク-NUS 医科大学(Duke-NUS、シンガポール)の膠芽腫研究チームは、シンガポール国立研究財団が支援し、シンガポール保健省国立医療研究評議会が運営する公開資金大規模共同研究助成(MOH-000541)下で、約 1,000 万シンガポールドル(745 万米ドル、8.2 億円)の助成金を受け取った。この諸機関の研究チームは、生物学と創薬標的の特定、人工知能(AI)を活用した創薬プラットフォーム、生物工学、ならびに適応型臨床試験という 4 つの主要な主題で、さまざまな面から膠芽腫と戦っている。[続きを読む](#)。

脳腫瘍手術前に機能的 MRI マッピングを行うと精神機能の維持に役立つことが研究から判明

既存の科学的データの総合分析において、研究者らは、脳腫瘍の手術前の磁気共鳴機能画像法(fMRI)マッピングの使用を、全ての脳腫瘍患者の標準とするよう提案した。[Radiology](#) 誌で公表された本研究で、3,280 人が参加した 68 件の研究で得られたデータを総合すると、術前の fMRI マッピングは、脳腫瘍患者の神経機能維持に有効な方法で、術前に fMRI 検査を受けなかった患者と比較して「有害事象」の数を半減できることが示されている。磁気共鳴機能画像法マッピングでは、患者がさまざまな動作(例、手足の指を小刻みに動かす)や思考過程(例、読書、言葉遊び)を行っている間に MRI 検査を行い、手術中に回避すべき正確な脳領域を見つけ出す。[続きを読む](#)。

再発 IDH 変異高悪性度神経膠腫患者において、オラパリブ(リムパーザ)が進行を抑制できなかったことが研究で示される

6 月 7 日にバーチャルで開催された米国臨床腫瘍学会(ASCO)年次総会で発表された臨床試験データによると、PARP 阻害薬であるオラパリブ(販売名:リムパーザ)は、再発高悪性度神経膠腫(腫瘍が IDH 変異型)患者において、目標としていた 6 カ月間のがん進行抑制に失敗した。第 2 相 OLAGLI 試験から、卵巣がんの治療薬として使用されているオラパリブは、忍容性が高いことが示された。また、一定の抗腫瘍効果を示したことから、他の化学療法との併用療法の実施可能性が示唆される。[続きを読む](#)(無料登録が必要)。発表アブストラクトは[こちら](#)を参照。

臨床試験由来データを用いて高悪性度神経膠腫患者に対する CAR-T 細胞免疫療法の効果を予測する研究

6月6日にバーチャルで開催された米国臨床腫瘍学会(ASCO)年次総会で発表された研究によると、研究者らは高悪性度神経膠腫患者に対する CAR-T 細胞療法の効果を予測するシステムを開発した。CAR-T 細胞療法(患者の白血球ががんを攻撃するように「訓練」されている免疫療法の一つ)を受けた高悪性度神経膠腫患者 60 人を対象とした第 1 相試験のデータを用いて、研究者らはコンピュータ・ソフトウェアで、患者と腫瘍のさまざまな要因(腫瘍の分子的・顕微鏡的特性、年齢、性別、民族など)を解析し、腫瘍に IL-13R α 2 という分子が多く含まれている患者の生存率が高く、腫瘍が大きい患者の生存率が低いことを突き止めた。これらの結果は今後の臨床試験計画の告知や患者の選択の最適化に有用な可能性があるとして研究者らは結論づけている。[続きを読む](#)(無料登録が必要)。ASCO での発表アブストラクトは[こちら](#)を参照。

研究から脳内のテモゾロミド耐性遺伝子が加齢と関連し、高齢の膠芽腫患者の転帰不良の原因になる可能性があることが判明

*Aging*誌に発表された研究で、年齢の影響が少ない他のがんとは異なり、高齢膠芽腫患者が若年患者と比較して化学療法に反応しにくい理由の候補のひとつが特定された。健常者と高齢者の脳から得られた遺伝情報の解析により、膠芽腫のテモゾロミド耐性に関連する遺伝子 TP73-AS1 が、加齢とともに脳全体で活性化していることが分かった。TP73-AS1 を活性化させるタンパク質 YY1 が高齢者の脳に多量に存在することも分かった。[続きを読む](#)(無料登録が必要)。

臓器移植用薬剤が膠芽腫の化学療法抵抗性を抑制する可能性を示唆する非臨床試験

Brain 誌に発表された一連の非臨床試験結果から、臓器移植患者の拒絶反応抑制に使用される薬剤が、膠芽腫の化学療法に対する耐性も低下させる可能性が示唆された。テモゾロミド処理を受けた膠芽腫細胞の遺伝子解析から、ARL13B 遺伝子が、膠芽腫細胞が DNA の構成要素であるプリンをより多く産生できるようにすることで、テモゾロミドに対する耐性獲得を促すよう使用されることが分かった。既承認薬であるミコフェノール酸モフェチルは非臨床試験でこの経路を阻害することがわかっており、テモゾロミドと併用することで、テモゾロミド耐性の発生が抑制される可能性が示唆された。[続きを読む](#)。

【企業ニュース】

臨床試験データから、KIYATEC 社の検査方法が高悪性度神経膠腫患者に有効な薬剤を正確に予測することが示される

KIYATEC 社は、*Neuro-Oncology Advances* 誌で発表された[臨床試験](#)(3D-Predict)の中間データ解析から、3D Predict™ 神経膠腫生体外アッセイは、新規診断高悪性度神経膠腫患者に対してテモゾロミドが有効かどうかを正確に予測できることが示されたと発表した。手術中に採取された患者の腫瘍組織検体を小型 3 次元腫瘍スフェロイドとして培養し、次にさまざまな抗がん剤で処理した。得られた多くの結果の中でもとりわけ、将来テモゾロミドに反応する患者群で全生存期間

が6カ月間(統計学的に有意)延長されていた。再発膠芽腫患者2人において、既存の遺伝子検査技術では使用できなかった分子標的薬ダブラフェニブを使用する科学的根拠が、この検査方法によって得られた。[続きを読む](#)(企業プレスリリース)。

CarThera社のSonoCloudデバイスが免疫療法のために血液脳関門を開き、神経膠腫の動物実験で生存期間を延長させたと発表

SonoCloud デバイスと免疫療法との組み合わせに関する非臨床研究で得られた有望な結果が *Clinical Cancer Research* 誌に発表されたと CarThera 社は発表した。SonoCloud デバイスは低強度超音波パルス波を脳内に照射して、一時的に血液脳関門を開放し、腫瘍部位への薬剤の到達を可能にする。2種類の免疫療法(抗PD-1抗体とCAR-T細胞)を受けている神経膠腫マウスを使った非臨床研究で、SonoCloud と免疫療法の療法を受けたマウスは免疫療法のみを受けたマウスと比較して、抗PD-1抗体/CAR-T細胞の腫瘍内濃度が高く、生存期間が延長したという結果が示された。[続きを読む](#)(企業プレスリリース)。

【脳腫瘍コミュニティのニュース】

小児脳腫瘍と白血病の臨床試験に関するポッドキャスト

このポッドキャストでは、英国で活動する David Walker 氏(小児腫瘍学教授、元英国小児脳腫瘍薬物送達コンソーシアム長)と Christina Halsey 氏(臨床上級講師、名誉 NHS コンサルタント小児血液専門医)は、小児白血病と脳腫瘍の臨床試験で得られた知見を共有し、全ての小児患者の利益につなげる方法に関して議論している。ポッドキャストには直接[こちら](#)から、または Spotify、iTunes などで「ResearchPod」を検索して、視聴可能。このポッドキャストは、[こちら](#)で閲覧可能な研究論文に基づいている。

【イベント／学会ニュース(抜粋)】

※患者向けイベントは省略 学会ニュースのみ抜粋

現在の COVID-19 パンデミックの影響で、世界中の多くの対面式の会議や学会が中止、延期、またはバーチャルイベントに変更されている。私たちはこうしたニュースに対応するよう最善を尽くしているが、予定されている会議の状況に関しては、必ず会議主催者に確認のこと。

2021年の学会会議

7月

[コロナ禍における青年期脳腫瘍患者に対する臨床心理学支援](#)

2021年7月7日 オンライン

[英国神経腫瘍学会年次総会\(BNOS2021\)](#)

2021年7月8日-9日 オンライン

[米国神経腫瘍学会\(SNO\):脳腫瘍とその微小環境に関する基礎・橋渡しオミックス研究会議](#)

2021年7月15日-16日 オンライン

[米国神経腫瘍学会\(SNO\)中枢神経疾患に対するレーザー温熱療法:教育的ウェビナー](#)

2021年7月21日 オンライン

[神経腫瘍免疫療法における進歩:欧州神経腫瘍学会\(EANO\)ウェビナー](#)

2021年7月28日 オンライン

8月

[米国神経腫瘍学会\(SNO\):脳転移に関する第3回年次総会](#)

2021年8月19日-20日 オンライン

[米国脳神経外科学会\(AANS\)2021年次総会:“脳神経外科の団結力を高める”](#)

2021年8月21日-25日 アメリカ フロリダ州オーランド

9月

[第2回神経腫瘍学シンポジウム\(2ANOS\):パキスタン神経腫瘍学会](#)

2021年9月3日-5日 オンライン

[神経腫瘍学の現状と将来:若手研究者フォーラム](#)

2021年9月21日-23日 オンライン

[2021 欧州神経腫瘍学会\(EANO\)総会](#)

2021年9月25日-26日 オンライン

10月

[米国神経腫瘍学会\(SNO\):中枢系疾患の臨床試験に関する会議](#)

2021年10月1日-2日 オンライン

[米国脳神経外科コンGRESS\(CNS\)2021年次大会](#)

2021年10月16日-20日

アメリカ テキサス州オースチン

[第34回欧州核医学会議\(EANM\)年次総会](#)

2021年10月20日-23日 オンライン

[国際小児がん学会\(SIOP\)2021年総会](#)

2021 年 10 月 21 日－24 日 オンライン

[欧州神経腫瘍学会\(EANO\)2021 年総会教育イベント](#)

2021 年 10 月 23 日 オンライン

[第 13 回 神経腫瘍学共同臨床試験グループ\(COGNO\)年次大会](#)

2021 年 10 月 24 日－26 日 オーストラリア メルボルン、オンライン

11 月

[米国神経腫瘍学会\(SNO\)2021 年総会と教育イベント](#)

2021 年 11 月 18 日－21 日 米国 マサチューセッツ州ボストン

12 月

[超高線量率\(FLASH\)放射線治療と粒子線治療に関する会議](#)

2021 年 12 月 1 日－3 日 オーストリア ウィーン、オンライン

[最大の安全な脳腫瘍切除: 術中可視化とコネクトームに関する神経腫瘍学会会議](#)

2021 年 12 月 6 日－7 日 オンライン

2021 年または 2022 年に開催される脳腫瘍患者やその擁護団体によるイベントまたは学術会議(バーチャルか対面かは問わず)を企画している方、ご存知の方、または上記イベントの変更にお気づきの方は、kathy@theibta.org まで、[イベントページ](#)に掲載可能。

IBTA ウェブサイトの[会議ページ](#)で、今後の学術会議やイベントの最新情報を確認のこと。

== 翻訳者: 渡邊 岳/JAMT(ジャムティ)翻訳チーム ==

IBTA(国際脳腫瘍ネットワーク)について

私たちについて 国際脳腫瘍ネットワーク(The International Brain Tumour Alliance:IBTA)は2005年に設立されました。各国の脳腫瘍患者や介護者を代表する支援、提唱、情報グループのネットワークであり、脳腫瘍の分野で活躍する研究者、科学者、臨床医、医療関係者も参加しています。詳細は www.theibt a.org をご覧ください。

ご意見をお聞かせください。IBTAコミュニティで共有したいニュースがあれば、ぜひお聞かせください。宛先:chair@theibta.org 月刊ニュースレターやホームページを通じて、ご購入者の皆様にできるだけ多くの情報を中継していく予定です。メールニュース記事の選択は、編集者の裁量で行われます。Copyright © 2020 The International Brain Tumour Alliance, All rights reserved. 無断複写・転載を禁じる。

(免責事項)国際脳腫瘍ネットワーク(IBTA)は、e-News(あるいは IBTA 向け、または IBTA に代わって作成されニュース内でリンクを提供しているすべての資料、報告書、文書、データ等)に掲載される情報が正確であるよう尽力しています。しかし、IBTA は e-News 内の情報の不正確さや不備について一切の責任を負いません。また、その情報やリンク先の Web サイト情報など、第三者の情報の不正確さに起因する損失や損害についても一切の責任を負いません。この e-News に掲載される情報は教育のみを目的としたものであり、医療の代替となるものではなく、IBTA ウェブサイト上の情報は、医療上のアドバイスや専門的サービスを提供することを意図したものではありません。医療や診察については、主治医にご相談ください。臨床試験のニュースを掲載することは、IBTA の特定の推奨を意味するものではありません。IBTA e-News からリンクされている他のウェブサイトは、IBTA は管理していません。したがって、その内容については一切責任を負いません。IBTA は読者の便宜のためにニュース内でリンクを提供しているものであり、リンク先のウェブサイトの情報、品質、安全性、妥当性を検証することはできません。IBTA のプロジェクトに企業が協賛することは、IBTA が特定の治療法、治療レジメン、行動の推奨を意味するものではありません。(スポンサーの詳細については、スポンサーシップ・ポリシーをご覧ください)。e-News に掲載されている資料の見解や意見は、必ずしも国際脳腫瘍ネットワークのものではない場合があります。